

感染症の流行・発生状況について
2023年第31週(7月31日～8月6日) 診断分

● 2023年第31週の警報・注意報

警報	注意報
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(宮古保健所)	なし

● 2023年第31週全数報告について(南部保健所管内)※先週からの追加報告も含む

《二類感染症》	《五類感染症》
結核 8件	梅毒 2件

● ヒトメタニューモウイルス感染症について

昨年度、南部保健所管内において、乳幼児を中心にヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症に伴う急性細気管支炎が認められており、人工呼吸器を必要とする重症例も認められました。hMPV感染症は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、法)で規定される1～5類感染症ではないため、沖縄県における流行の実態が把握できておらず、流行状況の把握目的にて、南部保健所では法第15条第1項に基づき、昨年度7月から積極的疫学調査を実施したところです。

本年度においても、南部管内8小児科定点の協力の下、ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症の流行をいち早く感知するため、引き続き積極的疫学調査を実施しています。

他の感染症とあわせて、以下の一覧表で還元していますので、ご参考にさせていただきます。

● RSウイルス感染症について

現在、本県ではRSウイルス感染症患者が増加しています。

感染症発生動向調査によるRSウイルス感染症の患者報告数は、令和5年第28週(7月10～16日)に、定点当たりの報告数が4.97人(定点医療機関31カ所、報告数154人)となっております。第29週からは減少しているものの、引き続き注意が必要です。

RSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症は、新型コロナウイルス感染症同様に感染予防策として「手洗い」、「マスクの着用(咳エチケット)」が重要となります。

これらの呼吸器感染症対策の周知について、ご協力いただきますようお願いいたします。

※定点医療機関とは、インフルエンザなど18の感染症について、患者の発生情報を提供する医療機関のことです。定点1医療機関あたりの平均報告数で、感染症の流行状況を把握しています。

沖縄県全体報告数

南部保健所管内報告数

疾病名	定点区分	28週	29週	30週	31週	31週	28週	29週	30週	31週	31週
		7/10	7/17	7/24	7/31	(定点あたり報告数)	7/10	7/17	7/24	7/31	(定点あたり報告数)
インフルエンザ	インフルエンザ	36	52	231	296	(5.48)	2	11	45	63	(4.50)
咽頭結膜熱	小児科	16	17	19	19	(0.61)	2	5	6	5	(0.63)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	小児科	69	54	63	47	(1.52)	12	6	11	9	(1.13)
感染性胃腸炎	小児科	85	74	94	59	(1.90)	28	18	39	20	(2.50)
水痘	小児科	2	1	2	0	(0.00)	1	0	0	0	(0.00)
手足口病	小児科	9	6	6	1	(0.03)	4	0	0	0	(0.00)
伝染性紅斑	小児科	8	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
突発性発疹	小児科	5	3	4	8	(0.26)	0	0	1	3	(0.38)
ヘルパンギーナ	小児科	28	17	30	16	(0.52)	17	6	15	10	(1.25)
流行性耳下腺炎	小児科	5	2	2	2	(0.06)	0	0	0	0	(0.00)
急性出血性結膜炎	眼科	0	0	1	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
流行性角結膜炎	眼科	8	5	12	6	(0.75)	4	1	7	5	(1.67)
細菌性髄膜炎	基幹	0	1	0	0	(0.00)	0	1	0	0	(0.00)
無菌性髄膜炎	基幹	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
マイコプラズマ肺炎	基幹	0	0	0	1	(0.14)	0	0	0	0	(0.00)
クラミジア肺炎	基幹	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
RSウイルス感染症	小児科	154	127	103	68	(2.19)	41	28	17	9	(1.13)
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	基幹	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
COVID-19	COVID-19	1,719	1,211	950	569	(10.54)	576	451	322	184	(13.14)
ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症							15	9	8	8	(0.89)

警報
なし

※クラミジア肺炎については、オウム病を除く。